

氏名：園田なおみ

大学名、学年：名古屋大学、4年

参加 session：SCOPH session

“Once a SCOPHian, Always a SCOPHian!” 今回の世界総会、March Meeting 2013 in the USA は、私にとって最後の世界総会でした。IFMSA 本部の SCOPH director がくれたこの言葉は、私が4年間 SCOPH で活動してきたことが、これからも私を支え導いてくれると改めて教えてくれました。そして特に、世界総会で得られた知識、経験、仲間との出会いこそが、「世界をより良くするためにアクションを起こし続けたい」という気持ちを根付かせたのだと思います。

今回の世界総会では、これまで以上に多くの収穫がありました。というのも、日本に持ち帰りたいと考えていたことが、ちょうど SCOPH session のトピックになっていたり、Project Presentation/Fair で発表されていたりと、幸運が続いたのです。私がアンテナを張っていたのは、下記の2つでした。

「1.SCOPH-Japan が共通して取り組む”World Days 企画”のヒントを得る」

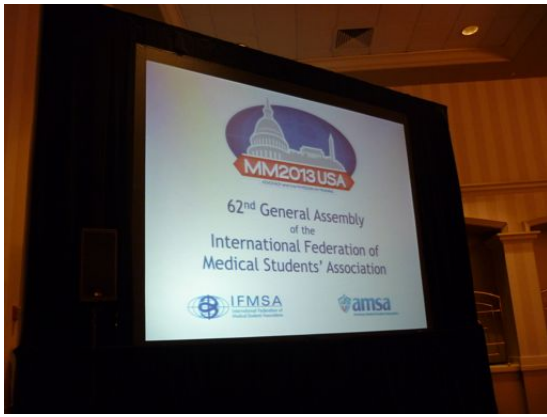
「2.SCOPH-Japan のプロジェクトにとって、活動のプラスになる取り組みを探す」

1.については、4月7日 World Health Day と 10月10日 World Mental Day の各国の取り組みを知ることができました。World Days に合わせた啓発活動は盛んに行われており、一般の人々にも受け入れやすいキャッチーな内容を心がけているようです。また、全国各地で一斉に企画を進めることで SCOPH スタッフの学生に一体感が生まれると共に、社会の中での認知度アップにもつながるといったメリットがあるとのことでした。

2.については、Africa Village Project のような学生派遣型プロジェクトを運営する学生や、ぬいぐるみ病院の絵本を作成した学生に話を聞かせてもらったりしました。世界総会初参加の SCOPH スタッフ遠藤・増田に、少しでも世界から新たな風を持ち帰ってほしいという思いのもと、過去4回の参加で培ったリサーチ力を発揮できたと思います。

さらに、世界の SCOPH の取り組みを通じて、SCOPH-Japan の強みと弱みについて考えさせられました。現在、SCOPH-Japan のプロジェクトの多くは「自分を変える」ことに主眼が置かれています。実際にスタッフ達は、意識/考え方/行動/生活習慣などが変わるような経験をしています。自分のためになる、というのは行動を起こす強いモチベーションです。また、取り組む際のハードルが低いことは日本の学生にとって魅力のようです。ただ、海外の SCOPH は、「まわりを変える」ことを重視しています。まわりに何かしら良い影響を与えるインパクトのある存在として、社会に認められています。この「まわりを変える」という点に関して、日本はこれから成長の余地があると思いました。これを踏まえての日本での具体的な活動方針は、次期 SCOPH 責任者である増田と共に考えていきます。

自分を振り返ると、世界総会に行かせていただいたことで、私自身「自分を変える」ことができました。そして、SCOPH のスタッフやローカルの学生たちに私の声を届けるという形で、「まわりを変える」ことを実践することができました。次世代へバトンタッチしても、公衆衛生との関わりを、世界を見つめる視点を、持ち続けていこうと思います。なにせ”Once a SCOPHian, Always a SCOPHian”なのですから。



Opening Ceremony



SCOPH Session



Small Working Group "Advocacy"



Japanese delegates